

2018年度
業績予想修正説明資料
2018年10月23日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2018年度上期業績予想修正

- 1. 総括(上期)
 - (1)収支 P3
 - (2)市況推移 P4
- 2. 上期業績予想修正
 - (1)市況・生産量 P5
 - (2)収支 P6
- 3. 第2Qの考え方
 - (1)市況・生産量 P7
 - (2)収支 P8
 - (3)資源セグメント P9

II. 2018年度通期業績予想修正

- 1. 総括(通期) P10
- 2. 通期業績予想修正
 - (1)市況・生産量 P11
 - (2)収支 P12
- 3. 下期の考え方
 - (1)市況・生産量 P13
 - (2)収支 P14
 - (3)資源セグメント P15

III. 2018年度配当予想修正（据え置き） P16

IV. 2018年度 感応度(5/10 公表時と変わらず) P17

I. 2018年度上期業績予想修正

1. 総括(上期)

第2Qからの金属価格急落により在庫評価損を計上するため、製錬セグメントは35億円の赤字見込み。加えて、資源セグメントは期ずれ、採鉱コスト増等の影響から2億円の赤字見込み。その結果、上期は営業利益・経常利益・純利益ともに赤字見込みとなりますが、後述の通り、通期では黒字確保の見込みです。

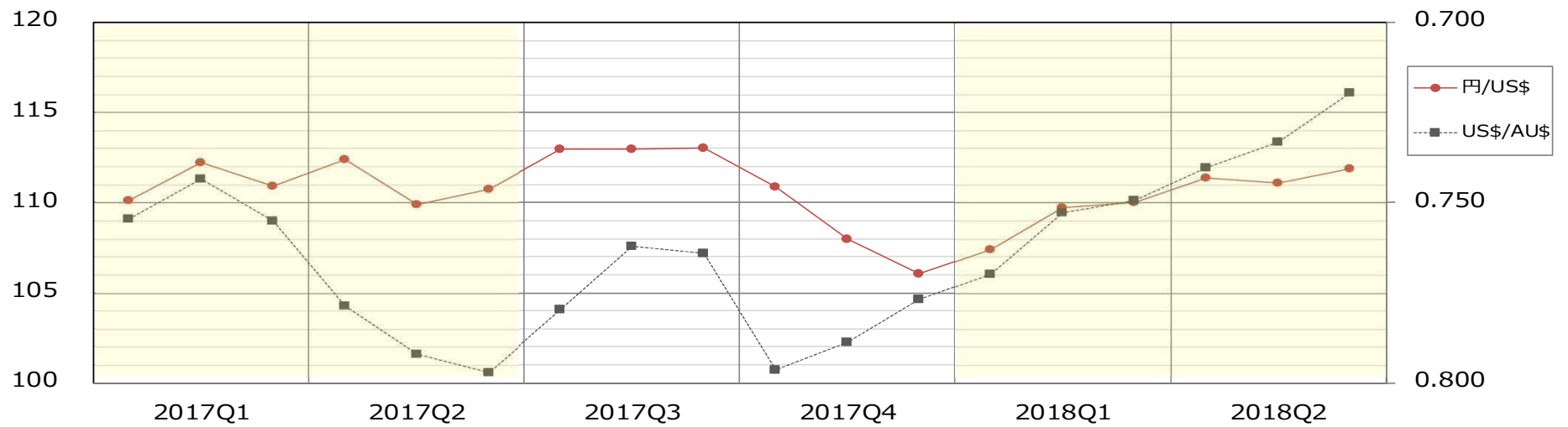
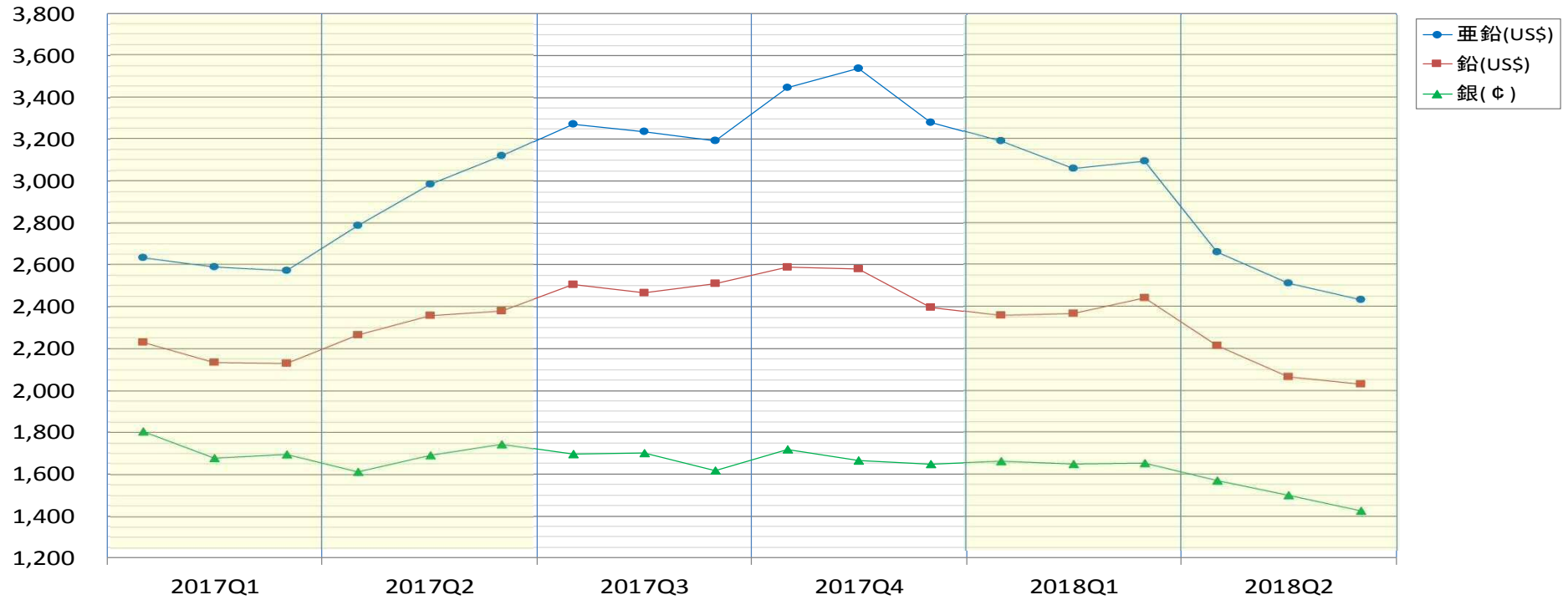
(1) 収支

単位:億円

	2018/5/10 公表	2018/10/23 業績予想修正上期
連結売上高	660	590
連結営業利益	37.0	△21.0
連結経常利益	36.0	△19.0
連結純利益	29.0	△12.0

1. 総括(上期)

(2) 市況推移



2. 上期業績予想修正

(1)市況・生産量

		5/10 公表ベース	業績予想修正前提	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	3,200	2,824	△376	△12	
	鉛(米\$/t)	2,400	2,245	△155	△6	
	銀(米\$/toz)	17.0	15.8	△1.2	△7	
	円/米\$	105.0	110.3	5.3	5	
	米\$/豪\$(1-6月)	0.780	0.774	△0.006	△1	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	46.4	47.8	1.4	3	
	鉛製品(千t)	49.5	44.8	△4.7	△9	
	電気銀(t)	170	153	△17	△10	
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	322	291	△31	△10
		ラスプ	359	368	9	2
		計	681	659	△22	△3
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	25.3	25.1	△0.2	△1
		ラスプ	28.6	27.9	△0.7	△2
		計	53.9	53.1	△0.8	△2
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	12.9	13.0	0.1	1
		ラスプ	13.4	13.7	0.3	2
		計	26.3	26.7	0.4	2

2. 上期業績予想修正

(2)収支

		5/10 公表ベース	今回修正上期	差(実額)	差(%)
売上高(億円)		660	590	70	△11
営業利益(億円)	製錬	3.0	△35.0	△38.0	—
	資源	25.0	△2.0	△27.0	—
	電子部材	3.0	3.0	0.0	0
	環境・リサイクル	11.0	8.0	△3.0	△27
	その他	2.0	2.0	0.0	0
	調整額	△7.0	3.0	10.0	—
	計	37.0	△21.0	△58.0	—
経常利益(億円)		36.0	△19.0	△55.0	—
純利益(億円)		29.0	△12.0	△41.0	—
EBITDA(億円)		68.5	10.5	△58.0	△85

3. 第2Qの考え方

(1) 市況・生産量

		第1Q (A)	第2Q前提 (B)	上期前提 (A+B)	
市況	亜鉛(米\$/t)	3,114	2,534	2,824	
	鉛(米\$/t)	2,387	2,102	2,245	
	銀(米\$/toz)	16.5	15.0	15.8	
	円/米\$	109.1	111.5	110.3	
	米\$/豪\$(1-6月)	0.786	0.757	0.774	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	27.0	20.8	47.8	
	鉛製品(千t)	25.1	19.7	44.8	
	電気銀(t)	92	60	153	
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	143	148	291
		ラスプ	177	191	368
		計	320	339	659
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	12.9	12.2	25.1
		ラスプ	12.6	15.3	27.9
		計	25.5	27.6	53.1
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	6.9	6.1	13.0
		ラスプ	5.8	7.9	13.7
		計	12.7	14.0	26.7

3. 第2Qの考え方

(2) 収支

		第1Q (A)	第2Q見込 (B)	上期見込 (A+B)
売上高(億円)		307	283	590
営業利益(億円)	製錬	4.1	△39.1	△35.0
	資源	1.5	△3.5	△2.0
	電子部材	1.5	1.5	3.0
	環境・リサイクル	5.3	2.7	8.0
	その他	1.4	0.6	2.0
	調整額	2.2	0.8	3.0
	計	16.0	△37.0	△21.0
経常利益(億円)		15.7	△34.7	△19.0
純利益(億円)		12.2	△24.2	△12.0
EBITDA(億円)		30.7	△20.2	10.5

3. 第2Qの考え方

(3)資源セグメント

第2Q(CBHは4～6月；親子会社間取引は7～9月)の資源セグメント利益は、CBH単体で営業黒字なるも、親子会社間取引の決算期ずれ調整等の影響で6.7億円の赤字となり、結果として3.5億円の赤字見込み。

①エンデバー鉱山

採鉱コストの増加により、2.6億円の赤字。

②ラスプ鉱山

採鉱コスト増加はあるものの、概ね順調に推移。

③期ずれ等

金属相場が急落した7月～9月の親子間取引の調整等の影響により、6.7億円の赤字見込み。

利益(億円)		第1Q (A)	第2Q見込 (B)	上期見込 (A+B)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	5.4	① △2.6	2.8
	ラスプ鉱山	4.6	5.0	9.5
	その他	0.4	0.8	1.2
	計	10.4	② 3.2	13.6
期ずれ等		△8.9	③ △6.7	△15.6
資源セグメント利益		1.5	△3.5	△2.0

II. 2018年度通期業績予想修正

1. 総括(通期)

- ・連結営業利益は、通期では公表比110億円から13億円と100億円弱の減益（下期は39億円の減益であり、うち31億円が資源セグメントの減益）となる見込み。主な要因は下期の金属相場前提の下方修正。その結果、連結純利益は公表比大幅減の21億円となる見込みです。
- ・配当予想については、安定配当の基本方針や、金属相場の今後の動向を見極める必要もあることから、当初（2018/5/10）公表の@125円を据え置くこととします。

(2018年度通期業績予想修正後収支)

単位:億円

	2018/5/10 公表	2018/10/23 業績予想修正通期
連結売上高	1,370	1,210
連結営業利益	110.0	13.0
連結経常利益	108.0	20.0
連結純利益	93.0	21.0

2. 通期業績予想修正

(1)市況・生産量

		5/10 公表ベース	業績予想修正前提	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	3,200	2,660	△540	△17	
	鉛(米\$/t)	2,400	2,120	△280	△12	
	銀(米\$/toz)	17.0	14.9	△2.1	△12	
	円/米\$	105.0	111.0	6.0	6	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.780	0.750	△0.030	△4	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	114.5	103.6	△10.9	△10	
	鉛製品(千t)	93.0	88.3	△4.7	△5	
	電気銀(t)	320	303	△17	△5	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	697	667	△30	△4
		ラスプ	722	741	19	3
		計	1,419	1,408	△11	△1
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	60.5	54.9	△5.6	△9
		ラスプ	62.6	61.1	△1.5	△2
		計	123.1	116.0	△7.1	△6
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	28.9	29.0	0.1	0
		ラスプ	30.9	31.7	0.8	3
		計	59.8	60.7	0.9	2

2. 通期業績予想修正

(2)収支

		5/10 公表ベース	今回修正通期	差(実額)	差(%)
売上高(億円)		1,370	1,210	160	△12
営業利益(億円)	製錬	10.0	△35.0	△45.0	－
	資源	81.0	23.0	△58.0	△72
	電子部材	6.0	6.0	0.0	0
	環境・リサイクル	20.0	14.0	△6.0	△30
	その他	5.0	5.0	0.0	0
	調整額	△12.0	0.0	12.0	－
	計	110.0	13.0	△97.0	△88
経常利益(億円)		108.0	20.0	△88.0	△81
純利益(億円)		93.0	21.0	△72.0	△77
EBITDA(億円)		173.0	76.0	△97.0	△56

3. 下期の考え方

(1) 市況・生産量

		上期見込 (A)	下期前提 (B)	通期前提 (A+B)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,824	2,500	2,660	
	鉛(米\$/t)	2,245	2,000	2,120	
	銀(米\$/toz)	15.8	14.0	14.9	
	円/米\$	110.3	112.0	111.0	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.774	0.720	0.750	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	47.8	55.8	103.6	
	鉛製品(千t)	44.8	43.5	88.3	
	電気銀(t)	153	150	303	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	291	376	667
		ラスプ	368	373	741
		計	659	749	1,408
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	25.1	29.7	54.9
		ラスプ	27.9	33.2	61.1
		計	53.1	62.9	116.0
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	13.0	16.0	29.0
		ラスプ	13.7	18.1	31.7
		計	26.7	34.0	60.7

3. 下期の考え方

(2) 収支

		上期見込 (A)	下期見込 (B)	通期見込 (A+B)
売上高(億円)		590	620	1,210
営業利益(億円)	製錬	△35.0	0.0	△35.0
	資源	△2.0	25.0	23.0
	電子部材	3.0	3.0	6.0
	環境・リサイクル	8.0	6.0	14.0
	その他	2.0	3.0	5.0
	調整額	3.0	△3.0	0.0
	計	△21.0	34.0	13.0
経常利益(億円)		△19.0	39.0	20.0
純利益(億円)		△12.0	33.0	21.0
EBITDA(億円)		10.5	65.5	76.0

3. 下期の考え方

(3)資源セグメント

下期の資源セグメント利益は、金属相場前提の下方修正により当初公表収支から半減するものの、営業利益全体の7割強を占める25億円の黒字を見込む。

①エンデバー鉱山

金属相場は上期>下期の前提となるも、深部採鉱の難易度に挑みつつ、上期以上の精鉱生産量の確保を目指す。

②ラスプ鉱山

金属相場は上期>下期の前提となるも、高品位鉱エリアの採鉱を進め、上期以上の精鉱生産量の確保を目指す。

③期ずれ等

7～9月の急激な相場下落による親子間取引の赤字収支が下期で戻るため、下期は黒字見込み。

利益(億円)		上期見込 (A)	下期見込 (B)	通期見込 (A+B)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	2.8	① 4.1	6.9
	ラスプ鉱山	9.5	② 14.6	24.1
	その他	1.2	0.7	1.9
	計	13.6	19.3	32.9
期ずれ等		△15.6	③ 5.7	△9.9
資源セグメント利益		△2.0	25.0	23.0

Ⅲ. 2018年度配当予想修正（据え置き）

2018年5月10日公表の配当予想@125円

⇒据え置き

従来よりの安定配当方針（市況により収支が大きく変動するため、配当性向よりも絶対額を重視）により、今回は当初配当予想を据え置くことといたします。

IV. 2018年度 感応度(5/10 公表時と変わらず)

	変動幅	2017年度試算		2018年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	\$10/t	¥67百万	¥46百万 (豪\$560千)	¥50百万	¥34百万 (豪\$410千)	△¥17百万	△¥12百万 (△豪\$150千)
鉛	\$10/t	¥37百万	¥31百万 (豪\$370千)	¥28百万	¥23百万 (豪\$280千)	△¥9百万	△¥8百万 (△豪\$90千)
円/米\$	1円/米\$	¥80百万	-	¥64百万	-	△¥16百万	-
米\$/豪\$	1%	豪\$2.9百万	同左	豪\$3.7百万	同左	豪\$0.8百万	同左

* 円換算は82.0円/豪\$を使用

尚、CBH社を連結する際に円/豪ドルレートを使用して円換算を行う。したがって、CBH社の豪ドル建損益水準は、連結段階では、最終的に円/豪ドルレートにより決定される。

年内精鉱生産量の1/3につきキャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ－フロアー内の市況を前提としたもの。